

こんしゅう　ひと　こ
今週のことば「人の子」

せいしゅ　ふくいんしゅ
《聖書》マルコによる福音書 9:2-10

こ　こ　ひと　こ
ヘブライ語やアラマイ語で「人の子」
いっばんてき　にんげん　い　み
は、一般的に人間を意味していました。

みこころ　と
『そのあなたが御心に留めてくださると
にんげん　なに
は人間は何ものなのでしょう。』

ひと　こ　なに
人の子は何ものなのでしょう。あなた
かえり　し　へん
が顧みてくださるとは。』(詩編8:5)

ひと　かみ　まえ　む　ひと　かみ　ぬぐ
人は神の前に無に等しいが、神は恵み
あた　かみが　ことば
を与えてくださるといふ考えがこの言葉
ふく
に含まれています。

しよ　もく
しかし、ダニエル書7:13-14では、黙
じ　ぶんがくてき　ひょうげん　つか
示文学的な表現を使って、イスラエルの
たみ　しゅうまつ　とき　しよこく　たみ　し　はい　の
民が終末の時に諸国の民を支配すると述
べられています。

せいしゅ　ぎてん
さらに、聖書の偽典であるエチオピア
こ　しよ　ひと　こ　てんてき　せんざい
語エノク書では、人の子が天的な存在と
えが　お　とき　しんぱん
して描かれ、かれは終わりの時に審判の
ざ　ぎ　しよゆう　すく　ぬぐ
座につき(61:1)、義を所有し、救いの恵
けいじ　ぎ　じん　ふっかつ
みを啓示するものとして、義人の復活を
もたらしめます(61:5)。

ふくいんしゅ　なか　もくじ　ぶんがくてき　ひょうげん
福音書の中でも、黙示文学的な表現で
よ　お　の　とき　ひと
世の終わりについて述べる時に、「人の

こ　つか
子」が使われています。

ふくいんしゅ
しかし、マルコによる福音書では、イ
じゆなん　かた　とき　とくべつ　い　み
エスの受難を語る時に、特別な意味で
ひと　こ　つか
「人の子」が使われます。

しよ　せつ　たい
8章29節で、ペトロはイエスに対して
こた
「あなたはメシアです」と答えます。こ
たい　だれ　い
れに対して、イエスは誰にも言わないよ

めい
うにと命じています。このことはイエス
とうじ　ひとびと　きたい
が当時の人々が期待していたようなメシ

しめ
アではないことを示しています。むしろ、
ひと　こ　おほ　くる　う　ゆえ
人の子は多くの苦しみを受けてそれ故に
えいこう　う　くる
栄光を受けるといふ、イザヤの苦しむし
すがた　おも　お
もべの姿(52:13-53:12)を思い起こさせ

ます。
わたし　せいしゅ　なか　ひと
私たちも、こうした聖書の中の「人の

こ　つか　かた　とお　かみ　なん　かいけつ
子」の使い方を通して、神が何でも解決
きたい
してくれることを期待するのではなく、
おな　まいにも　せいかつ　なか
イエスと同じように、毎日の生活の中で、
やくわり　は
それぞれの役割を果たしていけるように
どりよく　ひつようせい　まな
努力していく必要性を学んでいくように
しまししょう。

しじゆんせつだい　しめじつ　ねん　たきの
四旬節第2主日B年(滝野)